

未来に夢と希望、 勇気と誇り 地域の信頼築き高齢者を支援

株式会社アポケアとやま
代表取締役社長

藤井 明美 さん



介護事業を手がけていらっしゃる。これまでの歩みを教えてください。

「アポケアとやま」は、女性の薬剤師仲間と一緒に1998年に設立しました。ドイツ語で薬剤師を意味する「アポテカー」と「ケア」からつけた名前です。

大学卒業後、県内の製薬メーカーに就職しましたが、早々に結婚退職しました。女性でも職業を持ち、社会で自立したいという思い

が強くあり、小さい子をかかえながら薬局を開きました。初めは苦労しましたが、衣料品や化粧品も扱うようになり、ターゲットを美と健康に絞ると、同世代の女性客が集まり、楽しく商売しました。

介護への参入のきっかけは？

医薬分業の中で1990年代に入ると、県内の公立病院でも院外処方箋が発行され、薬局の仕事も調剤がメインとなり、医師の下請けのようでも面白味が薄れました。

2000年の介護保険制度開始に向けて薬剤師にもケアマネジャー（介護支援専門員）の資格取得が推奨され、1998年の第1回試験に合格しました。仲間と共同で「アポケアとやま」を設立し、県内第一号となる介護支援専門員のいる薬局を立山町で開きました。

2003年には、富山市が公募した新庄地区の在宅介護支援センターの運営を受託し、在宅支援の相談と、ケアマネジャーによる居宅支援の、2つのサービスを行い、介護事業に集中していきました。

－包括支援センター運営－

現在、富山市の新庄地域包括支援センターの運営を担われています。

高齢化社会を地域ぐるみで支える「地域包括ケア」という考えが国で打ち出され、2006年に在宅介護支援センターが「地域包括支援センター」に移行しました。新庄・新庄北地区を担当しています。

高齢者の相談窓口として介護以外の様々な相談も来るようになりましたが、当初は町内の民生委員の方も制度を理解しておらず、地域との連携が取れずに困りました。社会福祉協議会が間に入ってくださり、「問題を何でもセンターに相談するのではなく、地域とセンターと一緒に高齢者を支援していこう」という動きになりました。時間はかかりましたが、地域の方との信頼関係ができ、定期的にコミュニケーションを取っています。最近では、いわゆる買い物難民の高齢者を、地域の人達で買い物に連れて行こうという自主的な活動も始まっています。

信頼を築いてこられたのですね。

2009年には、活動拠点となる施設「新庄ヒルズ」を建設し、地域

包括支援センター、ヘルパーステーション、デイサービス、居宅介護支援、そしてサービス付き高齢者住宅も始めました。さらに施設を増設し、有料老人ホームも運営しています。

介護の自立支援、重度化防止が重要視されていますが、現場からはどのように感じていますか。

確かに自立した自分らしい生活は大切なことで、「ピンピンコロリ」は理想です。しかし、昨日まで元気だった人が突然重篤になるのも現実で、どんな時にも対応できるように、セーフティーネットを作っておかないといけません。

先日、医療機関から治療は尽くしたので自宅での看取りを宣告された90代の方をお預かりしました。ご家族も70代の高齢で、いつまで続くか分からない“看取り”介護を家でするには無理があります。2週間ほどで静かに息を引き取られるまでご家族は毎日見舞いに足を運ばれ、とても感謝されました。

それには、日頃の信頼関係が大切ですし、色々なケースに備えて、常にベッドもいくつか空けてあります。

職員の方の人材育成、キャリアアップはどうされていますか。

介護には、介護福祉士、ケアマネジャー、主任ケアマネジャー、社会福祉士など様々な資格があります。資格取得などキャリアアッ

プへの支援はしていますが、実務経験の年数も必要となるので、若い人でないとキャリアを積み重ねていくのは難しいです。また、資格だけでなく、ケアワーカーの現場対応力の育成が何より大切です。相談員や管理者を新しい人にやってもらうなど、色々なケースでのスキルアップを図る取り組みをしています。

介護現場は多様です。技術面、精神面ともスキルを高め、人の一生を見るという誇りを持って仕事に当たってほしいと思っています。真面目な人が多いので、人を楽しい思いにさせてあげられるよう、働く人もほがらかに成長してもらいたいです。

介護の制度も頻繁に変わります。

介護事業には他業種からの参入も多くなり、人材の確保が大変になってきています。今年4月の介護報酬改定で、デジタル化への対応が求められる、現場のデータ入力などが報酬に加算されます。人と人とのアナログの現場に、新たな取り組みを求められて大変です。ケアワーカーのスキルだけでなく、総務部門でも環境の変化に対応する人材の確保、育成が必要になってきています。

コロナ禍での対応は。

設備面や運営上の感染防止対策はもちろんとっています。スタッフ全員で集まることができなかつ

たので、私からのメッセージを手紙に書いて渡してきました。休んだら休業補償が出る業種もありますが、頑張っ

**－輝く社会へ障害者支援も－
今後の取り組みを教えてください。**

高齢者介護だけでなく、障害者の就労支援にも取り組みたいと思っています。今期中に「久遠チョコレート」の製造販売を始める計画です。高品質で美味しく、「障害者の自立と所得アップを実現し、輝き続けられる社会を目指す」という、この事業創始者の考えに共感しました。障害者本人はもちろん、ご家族も、関わるスタッフも、希望が持て、また、一所懸命な人を応援したいという気持ちも広がればいいなと思っています。

座右の銘をお聞かせください。

「誘われたら断らない」です。まずはやってみようと、アポケアを立ち上げた時もそうでした。長年、高志支援学校の後援会役員をしていますが、それもお誘いを受けたからです。そこで若い親御さんと話すうちに、何かできることはないかと思ったのが、今度のチョコレート事業に繋がっています。

会社概要

株式会社アポケアとやま

設立：1998(平成10)年6月
所在地：富山市上飯野新町3-391
資本金：3,080万円
事業内容：新庄地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、一般型デイサービス、認知症対応型デイサービス、訪問介護支援事業所、介護タクシー、サービス付き高齢者向け住宅、住宅型有料老人ホーム

従業員数：50名
事業所：新庄ヒルズ、新庄ヒルズII
関連会社：フジ薬局、NPO法人勇氣2015
URL：http://shinjou-hills.jp



地域包括支援センターを訪れた住民との打合せ

略歴

1949(昭和24)年生まれ、富山市出身。1972年富山大学薬学部卒業後、テイカ製薬(株)に入社し、翌年退社。1984年フジ薬局を開業。1998年(株)アポケアとやまを設立し、代表取締役社長に就任。